

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- 1 上級資格取得の推進と基礎学力の向上
2 勤労観・職業観の育成とキャリア教育の充実
3 授業改善推進プロジェクトチームが主導する授業の改善
4 自他の理解能力の育成とコミュニケーション能力の向上
5 豊かな人間性・社会性の涵養と特別活動の充実
6 健康教育の推進と安全管理の徹底
7 家庭及び地域社会との積極的な連携
8 勤務時間に関する意識向上と時間外勤務の抑制

各学校で定める目標と育成する資質・能力

総合的な探究の時間では、本校の教育目標のなかでも、特に以下の三点についての資質・能力を育成する。

- 1 自他の理解能力の育成とコミュニケーション能力の向上
2 家庭及び地域社会との積極的な連携
地域企業との積極的な連携
3 勤労観・職業観の育成とキャリア教育の充実
地元企業による高校内企業説明会の活用
上級資格取得の推進

総合的な探究の時間の学習評価

- 1 信頼される評価
三か月に一回程度、担当者による会議を実施し、学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
2 多様な評価・学習状況の過程の評価
(1) 年間計画書および授業毎の学習ノートの評価の対象とする。
(2) 前期終了時の口頭試問や文化祭等での発表を評価に加味する。
(3) 学習内容を記した報告書(レポート)を評価の対象とする。
(4) 課題研究発表会において第三者の評価を加味する。

生徒の実態

- ・基礎学力不足
・受動的な姿勢
・コミュニケーション能力不足
・地域との能動的な関わり不足

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・視聴覚教材や機器の活用
・各教科内での道德教育の充実

目指す生徒の姿

- ・確かな基礎学力の定着
・自主的な学習態度
・コミュニケーション能力の向上
・積極的な地域との連携

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1 学年 キャリア教育を通して考える、勤労観・職業観
(1) 知識及び技能
インターネットや参考文献等を使用し、自らの課題について調べられたか。
(2) 思考力、判断力、表現力等
自分たちで調べたことについて、班ごとに肯定的に議論できたか。また、結果をまとめた上で発表できたか。
(3) 学びに向かう力・人間性等
積極的な議論を進める中で、試行錯誤をしながら、自分らしさや将来の生き方についての答えを探そうとしたか。
3 学年 課題研究
※「課題研究 2単位」を履修することによって「総合的な探究の時間 2単位」に代替する。
(1) 知識及び技能
過去二年間の学習を生かし、各自の目標を達成することができたか。
(2) 思考力、判断力、表現力等
論理的に報告書をまとめ、発表することができたか。
(3) 学びに向かう力・人間性等
各自の研究内容を真摯に遂行し、やり遂げることができたか。

学習活動、指導方法等

指導上の特記事項

- 1 学年
本校入学生生の多くは、資格を多く取得し、就職や進学に生かしたいと考えているが、卒業後のイメージが漠然としている生徒も少なくなく、導入は丁寧に行う必要がある。そのため、自分らしさや将来の生き方について、自らテーマや課題を設定し、その目標に対して、他者と共に、試行錯誤させながら、能力や知識を育んでいく指導を行う。
3 学年
※「課題研究 2単位」を履修することによって「総合的な探究の時間 2単位」に代替する。
課題研究は、教科書を中心にして教わる形の授業形態ではなく、生徒自身が「研究テーマ」を考え、担当教員から助言を受けながら、一年間を通して研究し、「研究テーマ」の解決を図っていく科目であることを留意する。
調査研究分野においては、地元企業との連携を視野に入れた内容を取り入れる。

使用教材の特性

- 1 学年
学習ノート(毎時の記録) 目的に応じた参考書・資料等を各自で準備する。
3 学年(課題研究)
学習ノート(毎時の記録) 目的に応じた参考書・資料等を各自で準備する。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- 1 環境整備
(1) ICTが活用できる環境の整備 (2) 体育館メインアリーナ等の学年集会が可能な施設の確保
2 家庭・地域との連携
地元企業や日立市との連携・・・課題研究において調査研究分野や作品制作分野において連携をとる
3 校内の組織改善 指導担当者(1 学年:学年関係職員 3 学年:学年関係教員・課題研究担当者・進路指導部員)
(1) 総合的な探究の時間検討委員会の設置(教務主任・教務副主任・商業科主任・1 学年より主任を含む4名)
(2) 上記委員会では全体の計画・改善を図り、定期的に意見交換を行い、改善を図っていく。